

第7回 日経「星新一賞」受賞者を決定

理系的発想力を問う文学賞、日経「星新一賞」（主催：日本経済新聞社）の第7回受賞者が以下の15名に決定しました。第7回は2019年6月1日から9月30日まで応募を受け付け、応募作品は一般部門1,459編、ジュニア部門238編、学生部門181編で、総数は第6回の2,489編より611編少ない1,878編でした。環境問題を題材にした作品の応募が多く、一般、ジュニア両部門のグランプリ作品も環境問題に関する作品でした。AIによって創作された作品の応募は2編（第6回は5編）ありましたが、1次審査を通過した作品はありませんでした。

日経「星新一賞」について

星新一氏が残した創造性あふれる作品は、現実の世界で科学に取り組む人たち、未来を創ろうとしている人たちを刺激してきました。日経「星新一賞」は形式やジャンルにとらわれない理系的な発想力、想像力を問う新しい文学賞として2013年に創設。SF作家・SF評論家による複数の予備審査の後、最終審査を経て、このたび受賞者を決定しました。第7回の最終審査員は夢枕獏氏（作家）、小野雅裕氏（NASA技術者）、池上高志氏（東京大学大学院教授）、本仮屋ユイカ氏（女優）、坂本真樹氏（電気通信大学大学院教授）、滝順一（日本経済新聞社編集委員）の6人で、一般部門グランプリは賞金100万円。受賞作は2月下旬以降、電子書籍販売サイト「honto」で電子書籍として配信予定です。

（無料。利用登録が必要）

※詳細は日経「星新一賞」公式ウェブサイト <<https://hoshiaward.nikkei.co.jp/>>

※第1回～6回受賞作品集も「honto」で無料配信中（利用登録が必要）

一般部門グランプリ

「森で」

白川 小六（しわかわ・ころく）氏

コンゴのストリートチルドレン、リュカは、餓死寸前の所をベルギー人の博士に拾われ、皮膚に光合成可能な DNA と葉緑体を植え付けられる。博士の目的は、世界から飢餓を無くすことで、数年後には緑化ウィルスの開発に成功する。成長したリュカ達は博士を手伝ってウィルスを広め、人々を飢餓から解放するが、各国で緑化人と普通の人に対立し内戦へと発展してしまう。リュカ達は新しいウィルスを開発し、全人類を樹木化する。

ジュニア部門グランプリ

「折り紙」

池田 玲亜（いけだ・れいあ）氏

ある大きな玩具会社の開発部のトップ、村田。彼が作るおもちゃは、なんでも大ヒット……だった。長生きの薬が発明されてから、彼は百三十歳になる今まで、おもちゃを作ることはなくなってしまった……。そんな彼のもとに、ある日、部下の山本が訪ねてくる。山本は、新しく作ったおもちゃを、村田に見てほしいと言う。そのおもちゃを使ってみた村田は、あることを思いつき……。

学生部門グランプリ

「就活人間」

松尾 泰志（まつお・たいし）氏

身体拡張機器の発達により人の頭脳と肉体がカスタム可能になった時代。身体拡張の適性を重視した採用システムが主流になり、就活生たちは己に過剰な拡張を施すようになっていた。就活生の霧井は、ある企業の面接で「パブルヘッド」と呼ばれる異形の就活生と遭遇する。就活にすべてを捧げた「最強の就活生」と霧井は、二次試験のグループディスカッションで激突する。

一般部門優秀賞

J B C Cホールディングス賞

「テツノオトシゴ」

荒金 新也（あらかね・しんや）氏

アマダホールディングス賞

「ニューロマンザイ」

東 一真（ひがし・かずまさ）氏

旭化成ホームズ賞

「ムーンショット研究申請書」

人鳥暖炉（じんちょう・だんろ）氏

東京エレクトロン賞

「パペットと生ペット」

鶴川 龍史（うかわ・りゅうじ）氏

日本精工賞

「Black Plants」

関元 聡（せきもと・さとし）氏

スリーポンド賞

「プラスチックのない島で」

山崎 夏梳（やまざき・かずき）氏

ジュニア部門

準グランプリ

「地球再生計画」

花香 寿直（はなか・ひさなお）氏

優秀賞

「Yの悲劇？」

佐藤 瑠爽（さとう・るそう）氏

優秀賞

「おじいちゃんの思い出」

下平 千歳（しもたい・ちとせ）氏

優秀賞

「何かやり残し保険」

養田 竜也（みのだ・たつや）氏

学生部門

準グランプリ

「アイのレンズ」

山部 文子（やまべ・ふみこ）氏

優秀賞

「死者人形」

垂清 公（あずみこう）氏